



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第187号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

POSITIVE AGING

2010～11年度テーマ 「遊び心・学ぶ心・奉仕の心」で、クラブは今年も進化します

第187回例会・臨時総会

日 時：平成 23 年 5 月 12 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：63 名 欠席者 6 名 出席率 91.3 %

(会員総数 69 名 休会 0 名)

会食 (11:30～12:00)

第1部 臨時総会 (12:00～12:30)

1. 開会 東山例会委員長の司会で開会

2. 臨時総会 会長挨拶



皆様こんにちは、本日の臨時総会では来年度の役員選出をいたします。どうぞ宜しくお願い致します。

3. 議長選出

恒例により議長に杉山会長が選出され、書記に市川昌平会員、議事録署名人に中野義光会員、石田文彦会員が指名されました。

4. 次年度役員選出

一会則第 9 条並びに運営細則に

基づく理事の分掌一

佐々木副会長より、東京八王子プロバスクラブ

2011～2012 年度役員人事が提案される。

理事 吉田信夫 佐々木研吾 山崎修司

永井昌平 浅川文夫 宮城安子

有泉裕子 岩島 寛 馬場征彦

田中信昭 の各会員 10 名

会計監査 増田由明 竹内賢治 の会員 2 名

採決 挙手多数により議決されました。

理事 会 長 佐々木研吾 会員

理事 副会長 吉田 信夫 会員

理事 幹 事 永井 昌平 会員

理事 副幹事 宮城 安子 会員

理事 例会委員長 有泉 裕子 会員

理事 情報委員長 馬場 征彦 会員

理事 会員委員長 浅川 文夫 会員

理事 研修委員長 岩島 寛 会員

理事 地域奉仕委員長 田中 信昭 会員

理事 交流担当 山崎 修司 会員

会計監査 増田由明 竹内賢治 各会員

副委員長

委員会

委員長

副委員長

例会委員会

有泉 裕子

土井 俊雄

田中美代子

情報委員会

馬場 征彦

八木 啓充

宮田 正実

会員委員会

浅川 文夫

塩澤 迪夫

飯田富美子

研修委員会

岩島 寛

川村 真

佐々木 正

地域奉仕委員会

田中 信昭

矢崎 安弘

池田ときえ

以 上

5. 議長解任

議案は全て終わりましたので、議長の席を下ろさせていただきます。有難うございました。



次期会長 佐々木副会長挨拶

平成 22, 23 年前半の杉山会長の折は、プロバス 15 周年

記念事業の後、予期せぬ大地震などがあり、未だ終わっていませんが、有終の美を飾りたいと思います。どうぞ引き続きご協力をお願い致します。

6. 閉会

第 2 部 187 回例会 (12:30～14:00)

1. 杉山会長挨拶

3月11日の東日本大震災から早くも2ヶ月が過ぎました。被災地の復旧も、福島原発事故の改善も思うようには進んでいませんが、先月4月の例会時に皆様にお願ひした大震災義援金につきましては、早速会員の皆様から大変なご協力を頂きました。また、生涯学習サロン参加費の一部を義援金としてご協力頂く件に関しましても、多くの方々からご賛同を頂きました。この間の経過につきましては、後ほど澤渡幹事からご説明を申し上げますが、皆様のご好意、思いやりのお心に、まずもって心から御礼を申し上げます。本当に有難うございました。

本日例会後の学習サロン特別講話の開催と、その後の茶話会懇談の集いにつきましては会員の皆様方どうぞ宜しくお願い致します

2. バースデー報告

杉山会長から、5月のバースデー報告がありました。今月生まれば次の5名の方々です。

永井昌平 橋本鋼二 川村 真 阿部幸子
有泉裕子



池田ときえ会員から、心をこめた美しい、そして嬉しいバースデーカードが贈呈されました。

今月は “ 初夏の風となりたや ”
皆様 還暦もおすみの事と思います。これから
もどうぞお元気でお過ごし下さい。

3. 八王子「宇宙の学校」の現況報告〔第2回〕

下山・八王子「宇宙の学校」開設準備室長



先回は、口頭でしたが今回は企画書、その関連記事によってお話させていただきます。

子供の心に何事もお金で買う事が多いですが宇宙の学校では自分の手で経験する、実行する事です。

<企画のみなもと>

NPO法人KU-MA

(相模原市由野台 JAX4A 内)

「子ども・宇宙・未来の会」主宰「宇宙の学校」
会長 JAXA名誉教授 的川泰宣 博士

1:ビジョン (目指す理想)

<宇宙を軸に子どもたちを元気にしよう>
(KU-MA論説より抜粋)

KU-MAの活動は、「宇宙を家庭に届ける」「宇宙を通じて子どもと家庭の絆を強める」という考え方を重視しています。一般的な所謂「科学教室」の域を越えて、新しい時代の流れを創るための主張と実践です。KU-MAは、スクーリングと家庭学習を結合した「宇宙の学校」という新しい活動スタイルを創造し、いま全国的な展開を図っています。私たちは「宇宙の学校」が、子どもたちの心に火をつけ、日常的・継続的な意欲を結びつけて、新しい日本を築く巨大な流れになることを夢見しています。

「宇宙を軸に子どもたちを元気にする活動」への多くの方々の参加を期待しています。

2:八王子コンセプト (現実の概念)

八王子「宇宙の学校」を官民協働事業として企画しました。

主催：・八王子「宇宙の学校」実行委員会

共催：・NPO法人「子ども・宇宙・未来の会」

KU-MA・JAXA宇宙教育センター

3:シナリオ (実現する道筋)

<実行委員会組織>

原則、年間2～3回の会議開催

八王子市教育委員会(主管：八王子こども科学館)及び、東京八王子プロバスクラブを中心に据え、市内の主要な団体組織等の協力を得て、八王子「宇宙の学校」実行委員会を立ち上げる。(5月予定)

(実行委員会規約：第1章総則・第2章組織・運営・第3章会計を規定)(案)

<運営本部>の設置

実行委員会規約(案)：第2章組織・運営規定に基づき<運営本部>を設置する。

運営本部は、主に八王子市教育委員会(主管：八王子こども科学館)及び、東京八王子プロバスクラブ、市内大学生等により構成する。

<八王子「宇宙の学校」後援会>の設置

実行委員会の業務（主として財政）を支援するため、実行委員会規約（案）：第2章組織・運営に基づき、八王子「宇宙の学校」後援会を設置する。

後援会に関する規定については、別途、八王子「宇宙の学校」後援会規定を設ける。

23年度八王子「宇宙の学校」スケジュール（案）

1：平成23年10月30日（日）（日程変更）

会場：サイエンスドーム八王子

開校式 挨拶 石川 和昭 教育長
オリエンテーション 山下 法昭 先生
基調講演 的川 泰宣 博士
プラネタリウム学習
こども科学館 斉藤 和仁 館長
家庭学習説明 山下 法昭 先生
（家庭学習用教材の配布と使い方について）

2：平成23年11月13日（日）

会場：八王子市教育センター

第1回スクーリング＜実験学習＞
KU-MA 山下法昭先生ほか指導員
①テーマ 熱気球をあげよう。
②テーマ フィルムケースのロケット。

3：平成23年12月11日（日）

会場：八王子市教育センター

第2回スクーリング＜実験学習＞
KU-MA 山下法昭先生ほか指導員
①テーマ 傘袋のロケット。
②テーマ 風見鶏をつくる。

4：平成24年1月15日（日）

会場 八王子市教育センター

第3回スクーリング＜実験学習＞
KU-MA 山下法昭先生ほか指導員
①テーマ 種を飛ばそう。
②テーマ ふわふわスチロール風
家庭学習の成果発表。

● 23年度 閉校式 （修了証授与）

なお、別途お渡しした
八王子「宇宙の学校」組織の構想
（東京八王子プロバスクラブの支援組織）
に基づき、ご協力下さい。

4. 幹事報告 澤渡幹事

今年の学習サロンも最終日を迎えました。最後まで対応よろしくお願いします。

幹事報告 4 件

1 東日本大震災の義援金について

・4月例会で、義援金募集を呼び掛け、その日に287,150円と多額の善意を頂きました。5月も募



金活動を継続しますの
でご協力お願いいたし
ます。義援金の持ち込み
は、窓口となる八王子市
の募金締切が4月で一旦
締め切りとのことでし

たので、4月20日八王子市役所を訪問、杉山会
長より、黒須市長に、八王子プロバスクラブとし
ての義援金40万円をお渡ししました。会計処理
としては、4月・5月に集金させて頂いた金額と
の差額を一般会計から支出させて頂きます。

・生涯学習サロンとしての義援金

大震災の影響による学習サロンの中止に伴う未
使用金に相当する額に、何がしかの額を上乗せし、
義援金として取りまとめさせて頂きました。

一般参加者からは、119名中118名の同意を頂き、
一人500円相当とみて、一般会員分59,000円を、
プロバス会員分は一人880円として61,000円、
合計12万円を読売新聞社 光と愛の事業団宛寄
託いたします。本件については、読売新聞多摩版
に5月中旬に掲載される予定です。

以上、義援金関連2件、会員の皆様の温かいご支
援誠にありがとうございます。

2 宇宙の学校への補助金

・4月例会で、特別会計活動準備資金からの（宇
宙の学校）への補助金20万円について、ご賛同
を頂きましたが、準備室長から、「宇宙の学校」
を応援して下さる企業からのご支援により、この
補助を受けなくても済むとの見通しから、要請を
取り下げる旨の申出がありました。なお特別活動
準備資金の取り扱い規定については、周年行事の
他、対外活動の補助など、一時的出費に使用でき
る旨、（2006-7-13臨時総会）審議されていま
す。「プロバスだより126号」を参照下さい

3 クールビズ

例年 7～9 月に適用していたクールビズを今年は 6 月から開始します。今後については次期執行部に検討いただきます。

4 ハッピーコイン

クラブとしての義援金募金活動は、この 5 月をもって終了いたします。6 月から通常の活動に戻り、ハッピーコインを再開します。

5. 委員会報告

(1) 例会委員会 東山委員長

出席状況報告 (前記の通り)

(2) 情報委員会 吉田委員長

本号は馬場征彦会員に纏めて頂きました。

(3) 会員委員会 川村委員長

特になし

(4) 研修委員会 土井委員長

出前講座一覧表を見直しています。

名簿順序を入会順にしました。

(5) 地域奉仕委員会 下田委員長

前回 4 月 14 日 参加 プロバス 61 名

一般 75 名 計 136 名

中山二基子 先生の本『老いに備える』、

他一冊があります。お買い遅れの無い様に

(6) 交流担当 山崎理事

特になし

6. 同好会報告

(1) お茶の会; 6 月 13 日 陶芸教室

5 月 20 日迄 竹内、高取 委員まで

(2) ゴルフ同好会; 4 月 10 名 次回 6 月 23 日

〆切 6 月 9 日 例会まで

(3) 歴史の会; 6 月に開催

(4) 写真の会; 特になし

(5) 囲碁の会; 5 月 6 日 (金) 台町市民セン-

で囲碁大会が行われ、浅川文夫会員が優勝

(6) 麻雀クラブ; 毎月第 3 火曜日に開催

(7) 新しく同好会を発足します。

美術鑑賞の会 幹事 池田ときえ会員

日時 5 月 26 日 (木) 9:50

東京国立博物館前集合

1 部 写 楽 食事

2 部 浅草詣で

出欠は 2, 3 日前まで

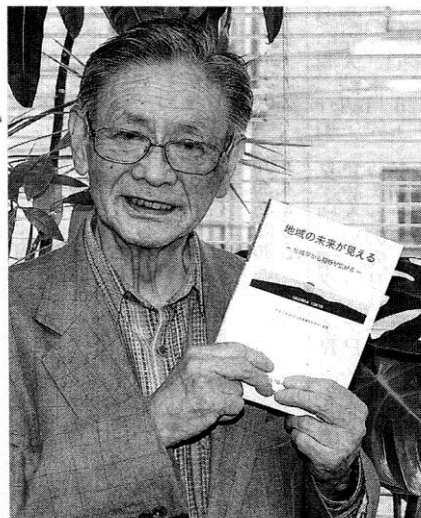
7. その他報告

(1) 佐々木副会長

八王子学会記念論文集が発刊されました。

(理事長 大野聖二会員)

八王子学会の 10 周年記念論文集を手にする大野理事長



10 周年記念し論文集

八王子学会が出版

「八王子学会」は昨年発足
二理事長(84)は昨年発足
10 周年を迎えたのを機に、
「地域の未来が見える」
地域学から視野が広がる」
と題した記念論文集を出版
した。
同学会は元大学教員、元
官僚、市民団体役員ら、専
門家や得意分野を持つ市内
ゆかりの人々が集まって 2

000 年に結成、過去 3 回
論文集を出している。
今回の論文集では高齢者
の社会参加など市民活動の
提言、市の財政状況の分析、
郷土食や民俗信仰の研究、
同市発祥の書芸術の紹介な
ど、幅広い分野から論文が
寄せられた。また、関係者
による座談会も収録した。
自らも古代史の所見を執

筆した大野理事長は、「空
間、時間、方法の広がりも
重んじ、自由な発想で地域
を考えるようにしている。
幅広く参考にしてもらえた
らうれしい」と話している。
揺籃社刊、A5 判 174
ページ、税別 1400 円。入手
希望など問い合わせは同学
会事務局(☎042・62
4・8110)へ。

5 月 25 日付 読売新聞 多摩版に紹介

(2) 第8回市民健康の日スタッフ応援

第8回健康フェスタ
が5月15日(日)、富
士森陸上競技場で
おこなわれ、当クラ
ブから延13名の
会員が応援に参加



しました。快晴のもと競技場の入口のテント
で、受付・案内等の仕事に精を出し、参加さ
れた市民の方に対応しました。

(3) 当プロバスクラブ生

涯学習サロン有志名で、
読売新聞社光と愛の事
業団に東日本大震災義
援金を寄託致しました。
その記事が読売新聞 5
月17日多摩版に掲載さ
れました。

東日本大震災救援募金
(敬称略)
▽八王子市 東京八王子プロバ
スクラブ生涯学習サロン有志(12
万円)

8. 新役員写真撮影



9. プロバスソング斉唱

10. 閉会の挨拶 佐々木副会長

充実した例会も終わりました。

宇宙の学校はやってみないと判らないです。
プロバスクラブも15周年も終わって、会員の意
識も年代も多様化しています。さらに来期に繋げ
ていきたいと思います。

皆さん有難うございました。

投 稿

ユーフラテスの辺で

荒 正勝



3月11日、東日本大震
災が発生した頃、私は何
も知らずにシリヤ沙漠の
北の都市アレppoからユ
ーフラテス河に向かって、
荒れ地の中をバスで走っ
ていた。

途中で見た古代の城塞や神殿は、幾多の戦争
や地震で壁や柱が崩壊し、長期の砂嵐などで瓦
礫の山と化していた。そんな遺跡の丘から、ゆ
るやかに流れる大河を遠望すると、水の流れに
ホット心が和む。大河の近くに小麦畑が広がる
豊かな田園があったからだ。河畔に立てば、流
れの力強さに目が眩む、これがユーフラテス河
だった。

メソポタミアは人類最古の文明を育んだ地域。
ユーフラテス河とチグリス河の間の肥沃な大地
で、灌漑農耕を始め、麦を大量生産し、都市国
家を発展させ、交易を行い、その必要から楔形
文字を発明し、彼らの生きた証の総てを粘土板
に記録した。膨大な数の粘土板が多く都市遺
跡から出土した。この活躍の主役はシュメール
人だという。

ここで世界最古の「ギルガメシュ叙事詩」の
中のから、「洪水」伝説の一部を抜き書きする。

「シュルツパクはお前の知っている町、ユーフ
ラテス川の岸边にある町だ。」「ところが、偉大
な神々は心をはたらかせ、洪水を起こそうとさ
れた。」「シュルツパクの人、ウバル・トウトウ
の息子よ、家を壊し、方舟を造れ。持ち物を放
棄し、生命を求めよ。財産を厭い、生命を生か
せ。生命有るものあらゆる種を方舟に導き入れ
よ。」

「すべての光が暗黒に変わったかと思うと、そ
の雄叫びで大地は壺のように壊れた。終日、暴
風が吹き荒れ、激しく吹いて、大洪水が大地を
襲った。戦争のように、人々の上に破滅が走っ
た。」「六日七夜、風が吹き、大洪水と暴風が大

地を拭った。」「そして、全人類は粘土に戻ってしまっていた。」

シュメール人は大自然の営みに神秘を感じ、それを恐れ敬い、豊穰を祈願し、5 千年前の古代を生き抜いた。私たちはその文明を受け継いでいながら、未だ大自然の神々と折合いのとれた生き方が出来ていない。

(ギルガメシュ叙事詩 月本昭男訳
岩波書店 1996 年発行)



嬉しかったこと

田中 美代子

先日、毎月一回行われている「あじさい会」があり、そこで嬉しい事がありました。あじさい会とは、私が住んでいる自治会の高齢者（75 歳以上の方）が、介護予防運動指導員による「椅子に座って行う転倒予防体操」と楽しい食事を摂りながらお互いに交流を深めることを目的としているところです。



あじさい会の構成は、スタッフ（食事・会場係）が 12 名で該当者（高齢者）が 10 名前後です。

私の担当は、学校給食の栄養士として培った経験を活かして「献立作成」「食材の準備」「調理」です。献立は、出来るだけ季節感をだし、家庭では摂取しにくい食材（豆類・きのこ類・海藻類・種実類）を入れるように心掛けているのと、色彩や食べやすくかみ砕けるような切り方を考えます。

その日の献立は、「たまご雑炊」「温野菜のチキンソース和え」「フルーツきんとん」でした。

温野菜のチキンソース和えは、人参・キャベツ・もやし・ホールコーンの野菜を蒸すか、ボイルをしておき、それにチキンソースを合わせます。温野菜の野菜は、火を通すことにより量を多く摂

取できます。そして、食中毒の観点からも予防が出来安心です。

野菜類には、ビタミン類が多く含まれていて、体の調子を整えてくれます。チキンソースは、鍋に油を引いて、にんにく・鶏もも挽肉を炒めて、そこに砂糖・醤油・塩・ごま油・酢・すりごまを入れて仕上げます。その調理過程の時、スタッフの一人が「少ない油で肉を炒めると、鍋肌に肉がくっついて苦労しています」と話がありました。

それは、すぐに箸でかき混ぜてしまうからで、「肉を入れたら暫くさわらないでおけば温度が上がり肉からの脂がでてくるので大丈夫」と説明しながら調理していたら「なるほど」と納得してくれました。

次のフルーツきんとんですが、さつま芋を蒸かしパインジュースを加えて練り上げたものです。さつま芋は太めの芋を選び、適当な大きさに切り、くしがすつと通るぐらい迄蒸かします。鍋に、砂糖と水を入れて火にかけ沸騰したところに、蒸かし上がった芋を入れてつぶしながら練り上げていきます。

その時に、パインジュースとパイン缶の果肉を加えます。最後に、絞ったレモン汁を少量たらし味を調えます。「さつま芋を裏ごししなくても大丈夫ですか？」「クチナシの実を入れなくても大丈夫ですか？」と質問がありましたが、「パインジュースの黄色でよろしいですよ」と説明しました。

「高価で甘い栗きんとんよりもさっぱりしていて、簡単に作れていいですね」と言ってくれました。さつま芋は芋類でありながら、ビタミンCが含まれていたり、便秘改善等に効果があるので、手軽に食べていただきたい食材の一つです。

このフルーツきんとんは、小学校給食で出した時も良く食べてくれましたが、今日も「美味しい」と言ってよく食べてくれて残りゼロでした。

他のたまご雑炊と温野菜もよく食べてくれました。嬉しい！「残さいがない」という事は、献立を作り調理する私にとって、何よりものご馳走で嬉しいし励みになります。

それから、スタッフの方々が調理過程を見て、料理のコツを学んでくれるのも嬉しいです。「今

度、家でも作ってみよう」、「作り方をもう一度説明してください」、「献立表をください」等の声が聞けて、人から人へ伝わっていくと思うと心が温かくなりました。

食後の雑談の時、「来月はどんな美味しいお料理が出てくるのですか？」と質問されます。毎月、楽しみに待っていらっしゃるのだと思いました。

食事は「元気な泉」、「命の源」、みんなと一緒に食べる楽しい食事は、食べたものの消化や吸収をよくしてくれますし、私達の心を幸せにしてくれます。

今後、家族が少人数になったり、一人暮らしの人が増えていく中、このような交流の会が重要になってくると感じます。

参加者全員が心身共に健康で過ごしていけるように、あじさい会のメンバーの一人として、嬉しかった事を励みに精進していきたいと思います。

子供たちに夢を

岩島 寛

読売新聞が今年（2011年）1月から2月にかけて実施した「昭和時代」に関する全国世論調査で次のような結果が出ている。



失われた礼儀や責任感

昭和の時代に比べて、今の日本人が失っているものを複数回答で選んでもらったところ、『礼儀正しさ』が52%で一番多く、『責任感』43%、『謙虚さ』36%などが続いた。

年代別に見ると、『礼儀義さ』を選んだ人は、20～40歳代で40%後半、50歳代、60歳代では50%台前半、70歳代では63%と、年齢が高くなるにつれて多くなっている。

『チャレンジ精神』を選んだ人は、全体では32%。年代別に見ると、20歳代では46%に上るなど若い層に多いのが目立つ。

私は今の20歳代の若者の50%近い人達が、分の両親や祖父母の年代の人達に比べて「チャレンジ精神」を失っていると思っているという実

態に注目したい。「今の若者は草食男子が多くなった」、「理科離れしている」「海外留学生が少なくなっている」「世界の小・中学生の学力レベルテストで日本はどんどん順位が下がってきている」と言った世評が巷に聞かれる昨今であるが、そのような世評の依って来る原因は「チャレンジ精神」が失われてきているからであろうと私には思われる。

皆さんも良くご存知のサムエル・ウルマンの詩「青春」は、この「チャレンジ精神」を高く評価した素晴らしい詩であり、私は額縁に入れて自分の部屋に掲げている。

「青春」 原作 サミュエル・ウルマン
邦訳 岡田 義夫

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。

曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探究心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜悦、勇氣と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われない。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至れば、この時にこそ人は全くに老いて、神の憐れみを乞うる他はなくなる。」

「ボーイズ・ビー・アンビシャス」（少年よ大志を抱け！）と言う訣別の辞を1876年札幌農学校（北海道大学の前身）において残して去った

のはニューイングランドのキリスト教科学者 William smith Clark (1826~1886) であった。彼のこの言葉に反映された思想を受継いだ当時の札幌農学校の卒業生たち(内村鑑三、新渡戸稲造など)は、まさに大きな志を抱いて世界をまたに駆けて活躍したのである。

では、子供たちがどうしたら大きな夢を、大きな志を、持つようになるであろうか。

卑近な例で恐縮だが、私の娘たちのことを考えて見た。長女は現在中学・高等学校の生物の時間講師をしている。これまで正規の教師だったが、我が子(小学校と幼稚園の子供)の教育を考えて時間講師に替わったのである。彼女が生物の教師になったのは、私の思うに、彼女が小学校の3年生か4年生の時の夏休みの宿題で、ショウジョウバエの観察日記を書き、それが西宮市の教育委員会主催の発表会で表彰され、私も一緒に表彰式に向いた帰り道、こんなことを娘に私が言った。「植物は水と炭酸ガスとから太陽の働きを借りて澱粉を作るんだ。人間はどんなに大きなプラントを作ってもそんなことが出来ないんだ。もしそれが出来るようになったら、そりゃーノーベル賞がもらえるよ。」と。娘は私の何気ない言葉をずっと心のどこかに留めていたんだと思う。そして、大学・大学院と生物を専攻した。親との何気ない会話も子供にはその子の将来を決めるものになるということである。

次女の方は現在ドイツ人と結婚してドイツのミュンヘン近郊に住んでおり、3歳の女の子の母親であるが、彼女がどうして国際的な生活をしているかを考えて見ると、これもまた、彼女が小学生の頃、私の仕事が合成繊維の製品開発とその製品のマーケティング活動であったので海外出張が多く、海外から航空郵便で子供たちに絵ハガキを送ったり、外国人を家に招待したりしていた。次女は父親のその生き様というか背中を頼もしく見ていたのであろう。大学は国際文化学部に進み、もっと英会話を学びたいとアメリカの大学に留学していた時に、今の彼と出会い、10年以上の国際交友の結果、結婚することになったのである。

考えてみると、二人とも小学校の頃に体験した

そのような出来事が、ずっと心のどこかに留まっていて、自分の将来の方向を決めていったのであろう。

この卑近な例から考えるに、小学校時代というのは将来の夢を決める大切な時期であり、しかも、親の生き様とか親との日頃の触れ合いというものが子供たちに大きな影響を与えらるということである。つまり、小学校時代というのは将来自分はどう生きたいか、どんな人になりたいかと言う人生行路を決める感性がすごく鋭くなってきているのではなかろうか。ですから、この時期に美しいもの、感動を与えるもの、興味を引くものなどを可能な限り沢山親と一緒に経験させることが、とても大切になってくるのではと思う。特に、自然の不思議、驚異、偉大さ、美しさ、面白さ、威力、恐ろしさといったことを経験させることは、21世紀を生きる子供たちにとっては、最も必要なことではないかと思う。

この意味からすれば、現在八王子プロバスクラブで、生涯学習サロンの次に力を入れて進めようとしている「八王子宇宙の学校」は、まさに、「子供に夢を与える」と言う八王子プロバスクラブ賛歌にも適った事業だと確信している。

私も及ばずながらこの意義ある「八王子宇宙の学校」を育て上げ、八王子の大勢の子供たちが、大きな夢と希望を持って、「チャレンジ精神」旺盛な若者に成長し、世の中に役に立つ人間になってくれるように、力を注ぎたいと思っている。

つづやき

- 老いて今日、既に負債も無く、良心に疚しいところも無い、身体のこと一病息災、時に折り合いをつけながら毎日を少しずつ進む。つくづく、幸せ基準は自分のあり方。最後までえながら枯れて行くエネルギーを大事にしたい。(TS)

編集後記： 窓辺に咲いているピンク色の紫陽花の花に和らぎを感じます。編集しながら眺めてはホッとしています。

阿部幸子